



〈本郷キャンパス〉 学校法人文京学園 文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院 保健医療技術学部／大学院／文京学院 大学生涯学習センター 〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1 ☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816 文京学院大学文京幼稚園 〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1 ☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉 文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園 〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196 ☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉 文京学院大学女子高等学校／文京学院 大学女子中学校 〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3 ☎03-3946-5301

# 中高「富士賞」授与式厳粛に

本校では、創立者・島田依史子先生と二代目学園長・島田和幸先生の遺志を受け継ぎ、中高生校生徒の模範となる者を表彰する「富士賞」授与式を、依史子先生の誕生日の2月に行っています。今年も、勉学・部活動・生徒会・ベン習字など地道な努力を継続し、成果を取った生徒をはじめ、ベン習字では卒業生・保護者・教員も表彰されました。

第54回「富士賞」授与式が2月12日、駒込キャンパス・ジャシーホールで執り行われました。始めに、高校生徒会副会長佐藤浩さん(1秋)の指揮で一同校歌斉唱。続いて、第37期中学生徒会会長桑原来々寧(2)が、依史子先生の教えをまもった「朝のこぼれ」の一部を朗読しました。表彰式では、島田輝子学園長が受賞者一人ひとりに賞状を、清水直樹高等部校長と水上茂中高一貫部校長が副賞を授与しました。受賞者は次の皆さんです(対象は3年生/敬称略)。



島田学園長から表彰される生徒

【総合部門】一人として豊かな心を持ち、周囲からの人望も厚く、本校の校訓である誠実・勤勉・仁愛の精神を体現した生徒

- ★中3 有安琴葉(菊)、陣内花緒(菊)、勝山(こころ)(桃)、野口遙加(栗)
★高3 杉浦帆乃佳(楓)、芦萱咲花(檜)、神尾茉依(檜)、小林菜音(桜)、古(菊)
★中学ソフトテニス部(東京都新人大会団体ベスト16、文京区夏季大会3年連続優勝、東京都育成プログラムSTEP2個人ベスト8、東京都冬期ランキング戦東京都3位) 大内瞳奈(桃)、太田呀美(菊)
★中学硬式テニス部(東京都総合体育大会団体予選ベスト4、新人戦シングル準優勝、ダブルス準優勝、第4ブロック大会個人戦3位など) 弥富十和(菊)、坂田裕香(菊)、木下理子(栗)、佐々木愛菜(栗)
★高校バレーボール部(東京都総合体育大会3位、春の高校バレー東京都代表) 佐藤衣歩希(杉)、安藤千汎(杉)、井上麗奈(杉)、内田萌亜(杉)、桂本佳奈(杉)、金子真奈美(杉)、下絢乃(杉)、高本真那(杉)、中山音佳(杉)
★高校サッカー部(インタハイ東京都予選ベスト8、高校選手権予選ベスト8、東京都高体連TOPリーグ5位) 小野寺玲奈(杉)、清家桜子(杉)、井出千晴(杉)、藤井柚沙(杉)、西辻菜々葉(杉)、大山明璃(杉)、平井美冬(杉)、大輪かれん(杉)、中島優花(杉)、鈴木りん(杉)、宇田川奈那(楓)、佐藤希奈(檜)、西ヶ谷紗衣(萩)
★高校新体操部(高体連関東新体操大会団体競技出場、東京都高体連インターハイ予選団体競技5位、関東大会東京都予選団体競技5位) 朝倉舞衣子(杉)、石川櫻子(杉)、及川綾乃(杉)、岡本晴花(杉)、佐久間桃恵(杉)、柴崎千紘(杉)、梅原杏奈(桜)、竹村美輝(萩)、松原伶奈(萩)
★高校ソフトテニス部(関東大会団体予選ベスト32、全国私学大会出場、東京都選抜東京インドア大会3位) 五十嵐仁美(杉)、大内杏奈(杉)、大木果音(杉)
★高校ソフトボール部(東京私学ソフトボール選手権大会ベスト16、東京都女子ソフトボール新人大会・都大会出場、さくらカップ3位) 鈴木葉菜(藤)、大橋綾乃(楓)、橋田藍(檜)、児島彩花(檜)、露崎玉緒(檜)
★書道部(高田宮杯日本武道館書道大展望会日本武道館賞、国際高校生選抜書道展入選、全国競書大会大会委員長賞・金賞・奨励賞、全国学生書道展特選・奨励賞) 大橋菜々子(梅)、高見澤咲季(梅)、岸暖乃(楓)、平石はるか(檜)
★アジア研究(SGHA)シエイト校である本校の活動の活性化に寄与し、各自の研究をまとめた論文集は、各所で高い評価を得た) 鈴木ひなた(檜)、石井菜月(檜)、杉田万梨花(檜)、須藤菜摘(檜)、田中希(楓)、中俣玲音(楓)、中屋佑望(楓)、原島香穂(楓)
★高校生徒会(学園祭では復興支援などの企画を推進。七夕、クリスマス、雛人形など、季節を通して生徒の学校生活が潤うよう活動) 林花音(梅)、桶谷妃音(梅)、諏江杏莉(梅)、中島菜奈(梅)、伊藤翔夏(楓)、高梨美咲(藤)、芦谷菜々穂(萩)
★ベン習字奨励賞(対象は全学年/敬称略) 600枚提出者(中学・高校合計374名)
★ベン習字精励賞特別表彰(600枚提出者) 敬称略
(600枚提出者) 敬称略
美智子、齋藤雅彦、中野純子、石田るみ、漆原良枝、多田健一、椎名智子、木島さゆり、金子ゆかり、辻陽子、芝本政子、卒業生、草野ひろみ、大塚梨紗、広田ロク、教員、高石和人(29回目)、岩倉賢樹(6回目)、相川詩織(嵐山写真撮影) 株、ティエ

## 大学 甲斐田万智子教授「アユスNGO大賞」受賞



受賞スピーチをする甲斐田教授(写真撮影=大久保佑華さん)

国際協力 NGO 活動の第一線で活躍する外国語学部の甲斐田万智子教授が「アユス NGO 大賞」(主催=特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク)を受賞し、1月31日、本立寺(品川区東五反田)で執り行われた授賞式に臨みました。「アユス」とは、仏教の僧侶たちが宗教を超えて設立したアユス仏教国際協力ネットワークが運営する国際協力 NGO です。今回の受賞は、認定 NPO 法人国際子ども権利センター(シーライツ)代表理事、国際協力 NGO センター理事などを務める甲斐田教授の「子どもの人身売買や児童労働の問題などを追求し、子どもの権利が守られなければならないことを一貫して訴え続けてきた」「子どもの権利啓発のパイオニアとしての存在と実践が、児童労働や子どもの性的搾取の問題などに携わる NGO 関係者に大きな影響を与え、優れた人材を輩出している」などの活動が高く評価されたことによるものです。甲斐田教授は受賞スピーチで、「社会に子どもの権利を普及させること、そして何より子ども自身が権利を知ること、暴力や搾取から身を守ることができると信じて活動してきました。今年は子どもの権利条約30周年。より多くの人々が子どもの権利を伝え、アクションを起こすことを願っています」と話しました。

- ★中学ソフトテニス部(東京都新人大会団体ベスト16、文京区夏季大会3年連続優勝、東京都育成プログラムSTEP2個人ベスト8、東京都冬期ランキング戦東京都3位) 大内瞳奈(桃)、太田呀美(菊)
★中学硬式テニス部(東京都総合体育大会団体予選ベスト4、新人戦シングル準優勝、ダブルス準優勝、第4ブロック大会個人戦3位など) 弥富十和(菊)、坂田裕香(菊)、木下理子(栗)、佐々木愛菜(栗)
★高校バレーボール部(東京都総合体育大会3位、春の高校バレー東京都代表) 佐藤衣歩希(杉)、安藤千汎(杉)、井上麗奈(杉)、内田萌亜(杉)、桂本佳奈(杉)、金子真奈美(杉)、下絢乃(杉)、高本真那(杉)、中山音佳(杉)
★高校サッカー部(インタハイ東京都予選ベスト8、高校選手権予選ベスト8、東京都高体連TOPリーグ5位) 小野寺玲奈(杉)、清家桜子(杉)、井出千晴(杉)、藤井柚沙(杉)、西辻菜々葉(杉)、大山明璃(杉)、平井美冬(杉)、大輪かれん(杉)、中島優花(杉)、鈴木りん(杉)、宇田川奈那(楓)、佐藤希奈(檜)、西ヶ谷紗衣(萩)
★高校新体操部(高体連関東新体操大会団体競技出場、東京都高体連インターハイ予選団体競技5位、関東大会東京都予選団体競技5位) 朝倉舞衣子(杉)、石川櫻子(杉)、及川綾乃(杉)、岡本晴花(杉)、佐久間桃恵(杉)、柴崎千紘(杉)、梅原杏奈(桜)、竹村美輝(萩)、松原伶奈(萩)
★高校ソフトテニス部(関東大会団体予選ベスト32、全国私学大会出場、東京都選抜東京インドア大会3位) 五十嵐仁美(杉)、大内杏奈(杉)、大木果音(杉)
★高校ソフトボール部(東京私学ソフトボール選手権大会ベスト16、東京都女子ソフトボール新人大会・都大会出場、さくらカップ3位) 鈴木葉菜(藤)、大橋綾乃(楓)、橋田藍(檜)、児島彩花(檜)、露崎玉緒(檜)
★書道部(高田宮杯日本武道館書道大展望会日本武道館賞、国際高校生選抜書道展入選、全国競書大会大会委員長賞・金賞・奨励賞、全国学生書道展特選・奨励賞) 大橋菜々子(梅)、高見澤咲季(梅)、岸暖乃(楓)、平石はるか(檜)
★アジア研究(SGHA)シエイト校である本校の活動の活性化に寄与し、各自の研究をまとめた論文集は、各所で高い評価を得た) 鈴木ひなた(檜)、石井菜月(檜)、杉田万梨花(檜)、須藤菜摘(檜)、田中希(楓)、中俣玲音(楓)、中屋佑望(楓)、原島香穂(楓)
★高校生徒会(学園祭では復興支援などの企画を推進。七夕、クリスマス、雛人形など、季節を通して生徒の学校生活が潤うよう活動) 林花音(梅)、桶谷妃音(梅)、諏江杏莉(梅)、中島菜奈(梅)、伊藤翔夏(楓)、高梨美咲(藤)、芦谷菜々穂(萩)
★ベン習字奨励賞(対象は全学年/敬称略) 600枚提出者(中学・高校合計374名)
★ベン習字精励賞特別表彰(600枚提出者) 敬称略
(600枚提出者) 敬称略
美智子、齋藤雅彦、中野純子、石田るみ、漆原良枝、多田健一、椎名智子、木島さゆり、金子ゆかり、辻陽子、芝本政子、卒業生、草野ひろみ、大塚梨紗、広田ロク、教員、高石和人(29回目)、岩倉賢樹(6回目)、相川詩織(嵐山写真撮影) 株、ティエ

Green Spirits

## 教務委員会の役割と取り組み

大学における教育には、初等中等教育を基礎とした上で「課題探求能力の育成」を重視しつつ、「専門的素養のある人材の育成」が求められている。本学でも、社会に貢献できる人材育成を行うべく、「教育力日本一」を目指した取り組みがなされており、各学部の教務委員会も大きな役割を担っている。その代表として教務委員長、教務マネージャーが集まり、全学的事項の審議を行う組織として全学教務委員会が存在する。この委員会を取りまとめる役割(教務部長)を、現・上村佳世子副学長の後任として昨年4月より担っている。文部科学省は、大学改革の基本方針を4つ掲げている。その1つである「大学の質保証・向上」では、教育の質保証や情報公開のための仕組みを構築し、実務家教員の登用を促進するとともに、教育体制の多様化、柔軟化を図ることが示されている。なかでも、教育の質保証に関する内容は、各学部の教務委員会および全学教務

保健医療技術学部教授 全学教務委員会教務部長 山崎 敦

委員会がPDCAのプロセスを構築し、そのサイクルを機能させる取り組みを行っている。このことは、7年周期を原則として行う「認証評価」にも関連する。第3期認証評価受審に向けて、教務委員会としても「自己点検・評価」の整備を行っている。例えばシラバス改変においては、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と当該授業科目の関連性を示すこと、予習・復習の学習内容をより詳細に記載することが挙げられる。また、学生の学修成果を把握するシステムの構築も、教務委員会が主体となって準備を行っている。一方で4月には、学修成果を評価する指針「アセスメントポリシー」が公開される予定である。このポリシーに基づき、学修到達度を測るための評価方法の検討や、電子媒体を利用した学修ポートフォリオの運用を進めている。しかし、課題もまだまだ山積している。今春より入学者の基礎学力を測定するテストを、全学的に実施する予定である。この結果をクラス分けテストの意味合いで終わらせないためには、入学前教育、さらには初年次教育と連動することが望まれる。そのためにも関係者との情報共有、各種委員会との横断的審議が不可欠である。



# 高校 タイ研修で研究発表

2012年から2017年の6年間、本校は文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール(SHS)として様々な取り組みを行って来ました。それらを基に、理数クラスの生徒たちは日々研究に勤しみ、発表体験を重ねています。

科学探究プログラムの一環で、1月5日から1週間、理数クラス12名の生徒たちが、本校と教育協定を結ぶタイのプリンス・チュロボン・サイエンスハイスクール・ベッチャプリ校(PCSHS)での研修プログラムに参加しました。

80名以上のパディに歓迎された生徒たちは、ウェルカム・パーティで文化紹介を兼ねた後、排水浄化施設を見学。王室プロジェクトによる土壌に関する展示では、土壌が農業に向か



研究成果を口頭発表



タイの生徒にポスター発表

きた教員の研究に関する内容で、講演の中で生徒への問題が提起されましたが、本校生徒が果敢に手を上げ、仲間を助けられながら英語で回答しました。

口頭発表は、本校は2組が実施。6カ月間かけて準備した成果を披露し、堂々と発表しましたが、質疑応答では想定外の質問に瞬時に英語で応答できない場面もあり、各自新たな課題が生まれたようです。ポスターセッションでは、タイの生徒に囲まれながら、何回も発表を繰り返しました。自分の研究を相手に理解してもらえよう、各質問に一生懸命答えました。

今回は、口頭発表とポスターセッションの様子をYouTubeでライブ中継。日本の職員室では、多くの教員がその様子を見守りました。ポスターセッションの時間帯は、日本時間の放課後だったため、理数クラスの教室で大勢の生徒がライブ中継を見ながら盛り上がりました。

最後に、PCSHSの校長から生徒一人ひとりに修了証が手渡され、実りあるフェアが終了しました。



「時間がない、もう作らなきゃ!」  
「10分以内!」  
「早く!早く!早く!」  
「早く!早く!早く!」  
「早く!早く!早く!」  
「早く!早く!早く!」

# 中学 「英語暗唱コンテスト」 堂々と英語力発揮



入賞者と関係者一同(写真撮影=スタジオ・トナミ)

第57回「中学英語暗唱コンテスト」が2月12日、駒込キャンパス・ジャシーホールで行われました。司会は、3年生の中野奏音さん(栗)、塚田愛菜さん(栗)、野口咲彩さん(桃)。

第37期中学生徒会会長の加藤真尋さん(3菊)の開会の言葉でコンテストが始まりました。水上茂中高一貫部校長の挨拶では、同コンテストの意義や最も優れた発表をした生徒に授与される「国友賞」の説明があり、出場生徒の顔は一層引き締まりました。審査員として、床爪克至教諭と2名のネイティブスピーカーが審査員が紹介され、いよいよ発表がスタート! 選抜を勝ち抜いた1年生9名、2年生8名、3年生8名が、英文暗唱を堂々と披露しました。

審査員による厳正なる審査の結果、次の生徒が入賞し、会場から大きな拍手が贈られました(敬称略)。

- 【中1】★1位 大谷遙花(栗) ★2位 植野葵(菊)
  - 【中2】★1位 花見優希(菊) ★2位 二瓶沙香(栗) ★2位 長岡里枝(桃) ★3位 吉川美羽(桃)
  - 【中3】★1位 常岡舞秋(栗) ★2位 加藤真尋(菊) ★3位 相川結衣(菊)
- 表彰式では、水上中高一貫部校長が入賞者の健闘を称え、賞状と盾を授与。最後に、第38期中学生徒会会長の高橋蘭さん(2菊)が閉会の言葉を述べ、熱い闘いに幕を下ろしました。

# 大学 「学校インターンシップ報告会」で成果発表

「学校インターンシップ報告会」(主催 教職課程センター)が2月8日、本郷キャンパスで開かれ、学校現場で貴重な経験を重ねた外国語学部3名の学生が個々の活動について発表しました。

棚橋信雄同センター主任の司会で、まず外国語学部の小泉博明学部長・教授が「学校インターンシップの意義」について語り、次の学生が発表に臨みました。

★角田晴香(4年) 「ICTの活用方法として、例えば個々が自分のスピーチをPPTで撮影して提出することで、全生徒がスピーチに参加でき、教員も授業終了後に個々の状態を把握できるという良い例を学びました。放課後学習のスタディルームでは、英語以外の学科を教えることが難しく、生徒と一緒に解くという形になり、英語に關してはライティングの指導が難しく、自分の課題と導かれました。授業で使える引き出しを増やし、物事を効率よくこなす力を養いたいと思います。約6カ月間の体験を通じて、より教員になりたいという気持ちが強まりました」

★佐藤正雄(3年) 「英語・数学・社会の授業参観で、学科に合わせたICT機器の活用方法を学びました。英語に關して、スピーチに参加でき、教員も授業終了後に個々の状態を把握できるという良い例を学びました。放課後学習のスタディルームでは、英語以外の学科を教えることが難しく、生徒と一緒に解くという形になり、英語に關してはライティングの指導が難しく、自分の課題と導かれました。授業で使える引き出しを増やし、物事を効率よくこなす力を養いたいと思います。約6カ月間の体験を通じて、より教員になりたいという気持ちが強まりました」

★大野友花里(2年) 「同校では、文科省からスーパーサイエンスハイ

スクールの指定を受けた経験と、現在指定を受けているスーパーグローバルハイスクールの授業において、探究活動を活発に行う中で高度な英語を学んでいます。朝早くに登校して、教員に熱心に質問する生徒の学びの意欲や、それに向かって向き合う教員の姿勢が印象的でした。教員がネイティブスピーカーとチームを組み、英語で授業をする現場では、自分の英語能力を高めることが課題であると感じました。常に学び続ける教員になりたいと強く思いました」

また、東京都採用試験に合格した猪狩遼太さん(4年)が、教員採用試験に臨んだプロセスと体験について話し、先輩にアドバイスを贈りました。

最後に、板橋区立赤塚第二中学校の村田浩文副校長、文京学院大学女子中学校高等学校校務担当の北野啓子教諭が講師。清水公男教職課程センター長・教授の挨拶で有意義な報告会を終了しました。



左から大野さん、佐藤さん、角田さん、猪狩さん

# 幼稚園 園児が元気に歌と演技を披露

## ふじみ野幼稚園

ふじみ野幼稚園の「子ども会」は、子どもの生活の中から生まれた興味・関心を、遊びの延長として発表する場です。心の中にある思いを表現することは「人との繋がりを築く」こと。自分の思いを表情・身振り・手振りで相手に伝えることは、社会の様々な場面で必要になるため、同会はこれからの人生に大切な土台作りとなります。



挑戦したのは『3枚のお札』。和尚さんのために、鬼が持っている花を手に入れるため、鬼とお相撲や綱引きをしますが、園児の表情は必死。仲間を応援したり、全力で鬼から逃げたり、クラス全員で力を合わせて楽しみました。

年中組(2月2日)は、先生が読んだ本を基に、園児はイメージを膨らませ、アドリブを盛り込んで、即興で舞台を創り上げていきました。

## 文京幼稚園

文京幼稚園の「子ども劇場」は、歌・劇遊び・オペレッタで構成されています。2月7日は、年少組が大好きな年中組と一緒に『くいしんぼおぼけ』、年中組は手話で『おひさまになりたい』を熱唱。年少組は劇遊び『どうぶつたちのクッ

キング』を披露しました。ねずみ、ペンギン、カンガルーになりきって演じました。

8日は、年中組が合同で『If You're Happy and You Know It!』他2曲を披露。見事な英語の歌に、会場から大きな拍手が贈られました。オペレッタ『たからじまとみんなのちから』は、子どもたちがアイデアを出し合い、ストーリーを作りました。そのため、人魚・海賊・冒険家・郵便屋さん・工事の人・医者という多種多様な役が生まれ、伸び伸びと歌い演じました。

10日は、年中組が歌とオペレッタ『かがやくたからもの』を熱演。ハチ、かたつむり、カマキリの配役は子どもたちが相談し合って決めました。

3日間、子どもたちは日頃の成果を精いっぱい発揮し、観客に大きな感動を与えました。

